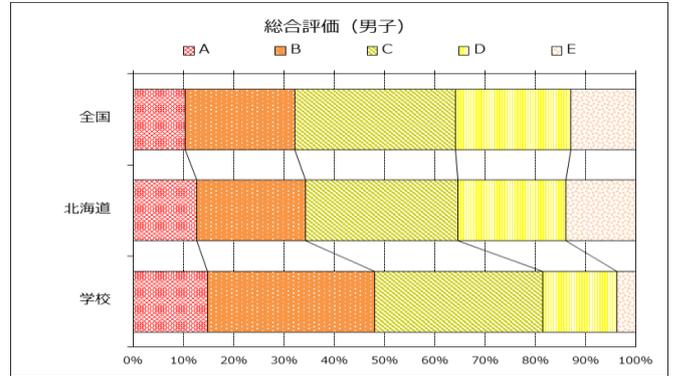
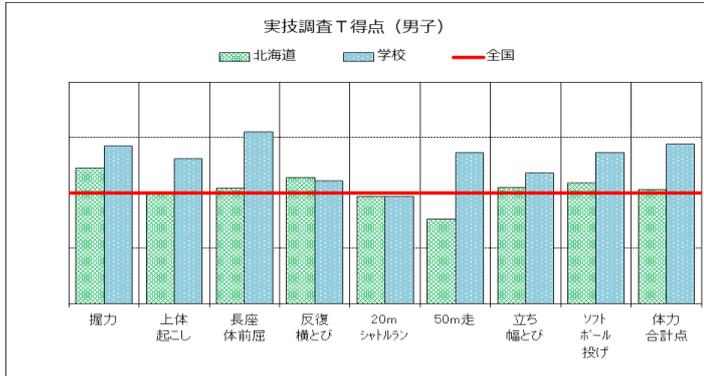


令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果における校内分析から見た本校児童の様子  
帯広市立豊成小学校 校長 平野 司

1 実施時期・対象学年 令和6年5月～7月実施し、第5学年を対象に分析したもの

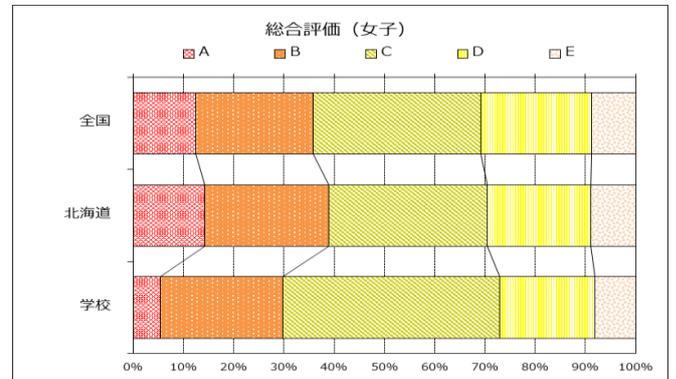
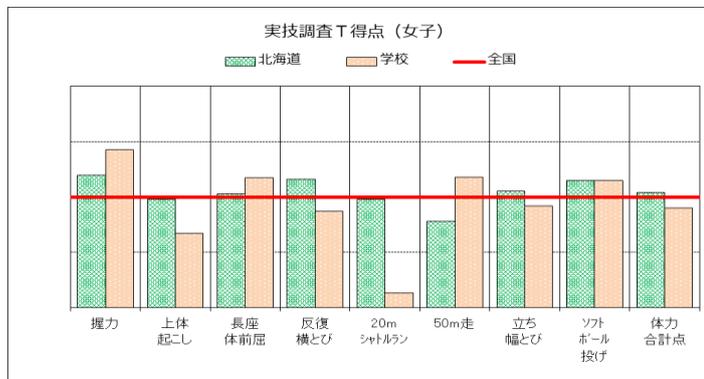
2 実技集計の結果

(1) 男子



男子の実技得点では、「20mシャトルラン」以外の7項目で全国平均を上回る結果となり、「握力」「長座体前屈」「50m走」「ソフトボール投げ」と、幅広い領域で得点を伸ばしています。「体力合計点」においても、全国平均を上回る結果となりました。「20mシャトルラン」はわずかに全国平均を下回りました。また、右側の総合評価では、A評価、B評価の児童の割合が、全国、全道に比べ高く、運動能力が高い児童が多いことがわかります。

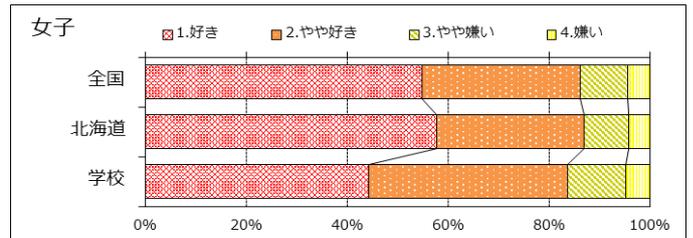
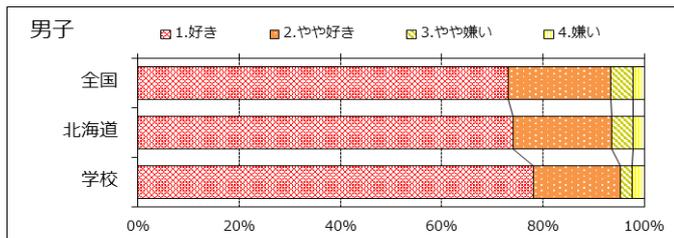
(2) 女子



女子の実技得点では、「握力」「長座体前屈」「50m走」「ソフトボール投げ」の4項目で全国平均を上回る結果でした。また、「体力合計点」では全国平均を下回っています。全8種目中、「20mシャトルラン」は全国平均との開きがあり、課題が見られました。日常的な運動習慣や学習への意欲付けが重要であると考えられます。右側の総合評価では、A評価の児童の割合が、全国、全道に比べ低いことがわかります。

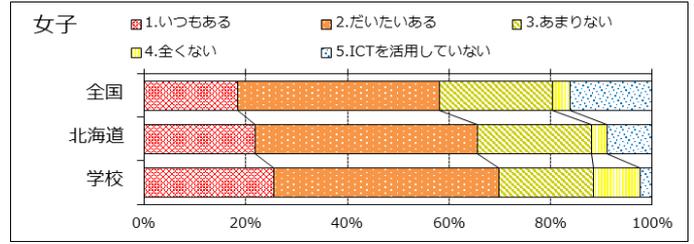
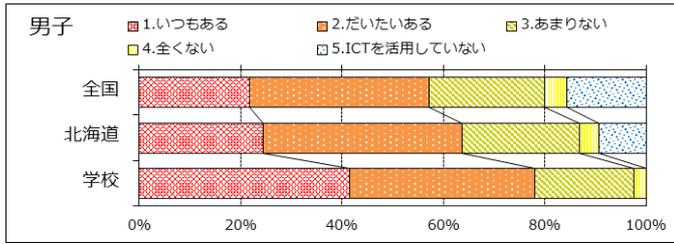
(3) 児童質問紙の結果

Q1.運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



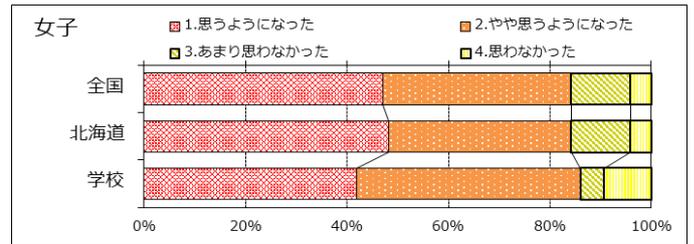
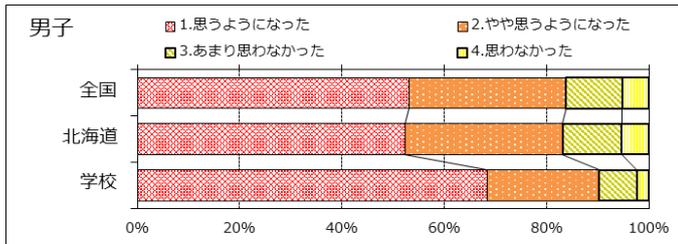
本校においては、男子は全国に比べ、運動やスポーツが好きで児童の割合が高く、女子は低い傾向にありました。女子については、「どんな時に体育の授業が楽しいと感じますか」の項目に、「できなかったことができるようになったとき」「記録に挑戦したり、記録があがったり、競い合ったりしたとき」「友達と交流したり、協力できたとき」と回答する児童が多くありましたので、スモールステップで運動能力の向上を感じさせたり、日常的に楽しめる運動スペースを設けたりすることなどを通じて、「運動が好き」と答える児童を増やすことにつなげていきたいと考えています。

Q13.体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



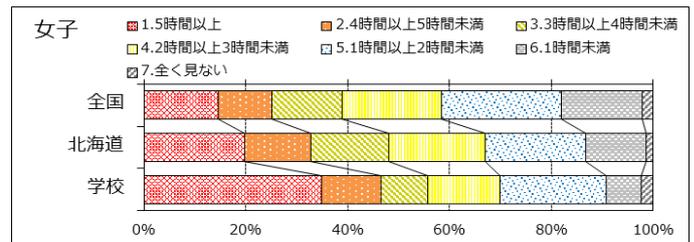
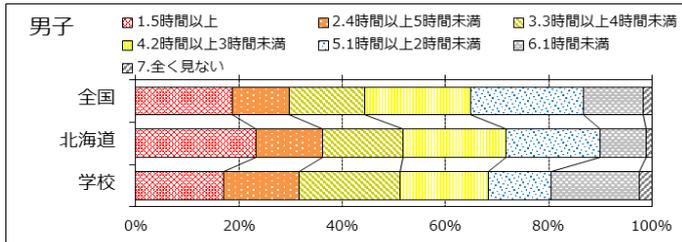
ICTを使って学習することにより、「できた、わかった」と感じる場面があると回答した児童は、男女ともに、全国の割合を上回る結果でした。日常的な学習において、動画で撮影した自分の動きを確認したり、端末を使って友達とよい動きについて話し合ったりする場面を積極的に取り入れることが、児童の「できた、わかった」につながっていることがわかりました。

Q17.保健を学習して、もっと運動しようと思いましたか。



保健領域(体の発達やけがの防止など)の学習と、運動領域の学習とを関連付けて考えることができる児童は、運動能力・運動意欲が高い傾向にあると言われていますが、本校では特に男子児童において、保健の学習を運動に活かそうと考える割合が高いことがわかります。今後も、保健領域を通じて健康増進への理解や、生涯を通じて運動に親しもうとする児童を育てていきたいと考えます。

Q8.平日(月～金曜日)について聞きます。学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



スクリーンタイムについて、全国平均との比較では、男子は1時間未満の児童が多く、反して女子は5時間以上と回答した児童が多いという結果でした。就寝時間や、翌朝の体調にも影響を及ぼすことが心配されます。保健の学習等を通じ、児童自身が、余暇と健康の関係についてよく理解し、家庭生活で実践していくことが重要です。

3 結果から

実技項目の結果から、男子は体力合計点を含め、「20mシャトルラン」をのぞくすべての項目で全国平均を上回り、女子についても8項目中、4項目で全国平均を上回る結果となりました。また、「20mシャトルラン」(持久力、ねばり強さ)の運動については、男女ともに課題が見られることがわかりました。動きを持続する運動に楽しみながら取り組む機会を増やし、「できるようになった、楽しくなってきた」という成果を感じられるような学習活動となるように、体育の授業改善に努めていきます。

また、今年度、体力向上の取組として、フリスビーや竹馬、フラフープなどの運動器具を自由に使用できるように設置したところ、外に出て遊ぶ児童が大幅に増え、夏の間はいつでもグラウンドがにぎわっている状況が見られました。児童質問紙でも、友達と交流したり協力したりする中で、運動の喜びを感じる児童が多いことから、日常的に仲間と運動に親しみながら、各能力を高めていくことができるように工夫していきます。

さらには、保健領域の学習と、運動能力との関連を重視し、保健の学習を、運動や生活に活かそうとする意欲を今後も大事にしていく必要があります。スクリーンタイムを含めた生活習慣の改善についても、児童自身の実践意欲で進めていくことができるものと考えます。引き続きの丁寧な指導と、家庭との連携によって、健康な児童の育成に努めていきたいと考えていますので、今後とも、各家庭のご支援をよろしくお願いいたします。